



きわめ人の談話室



医師

鉦 裕和 (たたらひろかず) さん

医療法人社団つくしんば会理事長。1955年島根県生まれ。東京都老人医療センター(現・健康長寿医療センター)などに勤務後、1997年東京都板橋区につくしんば会を設立。診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所を備え、地域の患者と家族を支援する。常勤の医師2名と非常勤3名で100人に往診、年間で約20人を看取る。

「おひとり死」を見守る

高齢者の生活を最期まで支える 地域医療

国の方針で入院期間の短縮が叫ばれ、生活力が落ちている高齢者が早くに退院を迫られる状況に、「こんなことでいいのかな」という疑問を抱き、20年前、同じ志を持った看護師さんらと診療所を立ち上げました。以来、「手術や検査など必要な時だけ大病院を利用し、普段は地域で完結できる地域医療」を目指して活動を続けてきました。治療には医師、看護師、ケアマネジャー、理学療法士、介護福祉士ら約50人が連携して当たります。毎週木曜には患者さんの情報を共有して治療方針を決めるカンファレンスを、設立以来欠かさず実施してきました。今は常勤医師2名・非常勤医師3名で、午前中は外来を受け、午後は約100名の患者さんを往診します。往診では治療やご家族への説明に短くても20分、長い時は1時間かけています。基本的に休みはありませんが、働くことが面白いと思えていれば精神的な負担は感じません。診療所で看取った患者さんのご家族が2代、3代で通ってくださることも多く、我々のやり方を評価していただいていることが何よりもうれしいですね。

病気の交通整理をしてくれる家庭医を見つける

患者さんの多くは老老介護や独居ですが、約97%が自宅での死を選んでいます。よく「孤独死」と言っている在宅で亡くなることをネガティブに語る風潮がありますが、これはおかしいと思います。一人で生きること、一人で死ぬことを自ら選択して暮らしている人もいますし、死に目に誰も立ち会わない状況というのは、もう当たり前前の時代です。「自然死」「おひとり死」ですよ。

サッカーのホームゲームでは選手は思わぬ力を発揮します。高齢者も在宅で過ごすほうが強くいられる気がします。在宅で長く健康で居続けるためには、まずかかりつけ医を持つこと。歳を取るといろいろな病気を同時に抱えるから、それをまとめて交通整理してくれる家庭医が必要です。いい家庭医を見つけるにはネットではなく、評判や口コミを参考に自分と性が合う医者を探すこと。「この医者になら殺されても仕方がない」と患者さんが思えるぐらいの信頼で結ばれた医者との関係が理想ですね。

死を間近にした人の心身の変化の解説や家族へのアドバイスなどを紹介した「在宅看取りのための心得書」

